

「全少」を日本一研究する指導者による提案

ZENSHOに 挑戦しよう!



第101回(最終回)

養正館館長 渡辺貴斗



ウチの子、もしかして発達障害?(その17) 続・ポイントをためる(応用行動分析⑧)

泣かないで道場に来ることができた、ヘイアン二段の順番を最後まで覚えられたなど、頑張っている姿を見つけたら、何かご褒美をあげたくなりますね。そんなとき、シール帳にシールを貼ってあげるだけでも、子供たちは大喜びします。このようなご褒美をトークンといいます。

実際にトークンエコノミー(トークンで買い物すること)を取り入れて大成功している、名古屋市の空手道場、成人館(田村真一先生)をご紹介します。それでは、田村先生ご本人に解説していただきましょう。

★名古屋市・成人館の取り組み

成人館の田村です。みなさんよろしくお願ひいたします。

成人館では出席数に応じてガチャガチャで、カプセルが引けるようになっていきます(写真1)。

元々はそろばん塾でやられていたものを参考に始めました。カプセルには、「カラン」というカラテからモジった、道場だけで使える独自通貨が入っており、10カラン、50カラン、100カラン…など5種類あります(写真2)。

何が出るかは引いてからの楽しみです。みんな稽古が終わると我先に台の前に並び、自分の番になるのを心待ちにしています。実際に引く時は、ワクワクドキドキです(写真3)。

中を開けるとこんな感じで紙幣(カラン)が入っています(写真4)。

それを貯めることで駄菓子や文房具などと交換可能です(写真5)。これを楽しみに稽古に来る子もいるほどです。たくさん貯めてからお宝と交換してもよいし、すぐにミニ駄菓子に交換する子もいます。空手を始めたばかりの子や小さい子に、空手=楽しい所、稽古に来たら良いことがあるという、プラス



写真1

写真1: オリジナル性を高めたガチャガチャ。

写真2: 「カラン」という道場独自通貨を発行。

写真3: みんな大好きガチャガチャ。ワクワクの瞬間。



写真2



写真3

写真4：カプセルを開けると独自通貨の「カラン」が入っています。どうやら100カランだったようです。

写真5：「カラン」を使って駄菓子や文房具、おもちゃと交換。品揃えを色々工夫するのは大変ですが、楽しみな部分でもあります。



写真4



写真5

の印象を持ってもらうのが狙いです。

★活気があって楽しそう

入会手続きのとき、お母さん方に入門の決め手を伺うと、「通っている生徒さんたちが楽しそうで、道場に活気があったので」という方もいらっしゃいます。トークンがその雰囲気作りの一役を担っていると考えます。

体験の時に「あのガチャガチャって何が入っているの?」と興味津々に聞いてくる子も多く、「カランというお金が入っていて、稽古に来たら引けるんだよ」と伝えと、「ぼくもやりたい!!」と目を輝かせて次の稽古も休まずに来てくれます。

「空手楽しいから行く日を増やしたい!」、「あのジュースと交換するにはあと20カラン必要だから、今お菓子と交換するのは我慢するよ」などと子供たちが自ら考え、管理していく能力も高まっているので教育的にも有難いと、複数の保護者様から嬉しいお言葉をいただいております。

★先輩後輩のつながり

さらには、道場生同士の交流にも役立っています。



写真6

す。先日、小5女子の先輩が自分の貯めたカランで駄菓子を買って、白帯の園児に分けてあげている光景を見ました。白帯の園児が「ありがとう♪」と満面の笑みでお礼。先輩もニッコリ笑って「またあげるね!」と、ホックリするやり取りに癒されました。

友達同士で交換した駄菓子を食べながら、楽しそうにお迎えを待っている姿(写真6)を見て、私も気付いたら笑顔になっていた、なんてこともよくあります。

★今後の課題

トークンエコノミーにはマイナス点もあります。景品購入に経費がかかる、毎回、カプセルにトークンを詰める作業が煩雑である、などです。また、過剰なご褒美にならないように、金額調整も必要です。トークンのために頑張っている状態(外発的動機)から、稽古を通して得られる喜び(内発的動機)に最終的には移行していく必要があります、その辺りが今後の課題です。

以上、田村真一先生でした。田村先生、ありがとうございました!

「ZENSHOに挑戦しよう!」は今回が最終回です。渡辺真斗先生の新たな連載が1月号からスタートします。11・12月号は特別記事が掲載されます。

乞うご期待!

PROFILE

■渡辺真斗 TAKATO WATANABE

1968年4月20日生まれ。7歳から父である館長から空手の手ほどきを受ける。児童心理学や成功哲学を研究して子どもたちの「心をつくる」指導法に切り替え、2013年5名、2014年・2015年7名、2016年5名、2017年9名、2018年・2019年5名を全少入賞させ、一道場での全国最多入賞を連続で記録する。道場経営でも、一道場で350名を超える大躍進を続ける。



空手道場 養正館 / 静岡県沼津市本田町 11-12